

新しいことばの創造と受容を通して日本語と外国語を考える指導
—小学校国語科と外国語活動の連携の試み—

西 崎 有多子

愛知東邦大学

新しいことばの創造と受容を通して日本語と外国語を考える指導 — 小学校国語科と外国語活動の連携の試み —

西 崎 有多子

目次

1. はじめに
2. 江戸時代の異文化流入と翻訳語の創出
3. 新しい翻訳語への挑戦
4. 現代の異文化流入と新しいことば
5. 中国語における翻訳語
6. 小学校国語教科書における和語・漢語・外来語
7. 英語における翻訳語
8. 国語、英語（外国語活動）、そして歴史（社会）との連携と教材化案
9. おわりに

1. はじめに

前稿「外来語を使って『外国語活動』と『国語』を連携させる授業を創る」では、子どもたちにとって日本語と英語が混在しつつ身近で使用されていることばとしての外来語を、有効な教材の一つとして取り上げた。本稿では、外国語から伝わったことばや文化が受け入れられていく過程で、そのまま外来語になるのではなく翻訳され、日本語として受容されていった例等を歴史や中国語の例にも触れながら教材として活用する指導について述べたい。教材とする場合は、外来語と同様、子どもたちが既に使っていることばを主に語彙面で取り上げ、できるだけ今までとは違った視点から新しい気付きを導き出すことにより、言語や文化に対する興味・関心を持って「体験的に理解を深める」ことを基本と考えたい。8. では、《教材化案》として、教材化の可能性について述べる。

2. 江戸時代の異文化流入と翻訳語の創出

古代、日本への異文化流入は、主に中国や朝鮮の国々を通してなされ、よく知られた例としては渡来人や遣隋使・遣唐使がある。当時日本語には文字がなかったため、以後中国語の文字が使用されることになった。外国語の文字を日本語に用いるための工夫がされたが、結果として音読みと訓読みの二つの読み方が生まれることとなり、複雑なものとなった。最初の西洋人からの直接的な文化流入はザビエルたちによるものと考えられ、そこではポルトガル語との接触があった

と思われる。キリスト教の布教のためには、通訳・翻訳も必要であり、ある程度は言葉の交流も行われたと推測できるが、後年のキリシタンの弾圧に伴い使用を禁止されたため、ごく一部の単語を残すのみとなり、結果的にポルトガル語の日本での定着はなかった。《教材化案 ①》

幕府による鎖国後は、唯一の窓口である出島を通して、主にオランダ語が通商ならびに情報収集のための外国語となった。しかし、接触は出島に限られていたため、オランダ語は職業として通訳・翻訳に関わった長崎通詞と一部の蘭学者以外には、ほとんど広がることはなかった。その後、蘭語・蘭学が普及し、発展した時期もあったが、オランダの国力低下や諸外国からの来航や諸事件の発生により、幕府はオランダ語だけに頼っていた方針を変更し、通詞たちにロシア語や英語を学ぶように命じるようになった。《教材化案 ②》

江戸末期に近づくにつれて、蘭学から英学への流れは大きな潮流となり、開国へと向かう時代の中で、英語との接触は、それまでの外国語とは比べ物にならない規模と勢いで進んでいった。外国へ漂流し、その後活躍した日本人も少なくなく、ペリーによる黒船来航、西欧諸国との相次ぐ条約締結、諸藩からの留学生派遣等、英学の必要性は高まる一方となった。かつての蘭学がそうであったように、英学は、西洋の新しい文化を学ぶための道具として急速に普及し、新しい文化に触れる機会が増えるに従い、多くの翻訳語が生み出されることとなった。《教材化案 ③》

3. 新しい翻訳語への挑戦

蘭学の時代は、医学、化学、薬学等の分野で通詞や医学者たちによって、新しい医学用語が創出された。江戸末期の英学流入時においては、諸外国語と日本語を比較しながら、既存の漢方用語、日常語なども考慮され、蘭語に詳しい者でなくても理解できるように工夫された。例えば、「神経・胃液・小腸・大腸・尿道」など現代でもそのまま使用されている語が多い。また、これらの用語は、現代の中国で「神经・胃液・小腸・大腸・尿道」と簡体字ながらそのまま使用されている。《教材化案 ④》

江戸末期は、政治、経済、思想、哲学、美術、物理学などより広い分野で使用される単語が翻訳によって生み出された。「権利・主義・美・存在・個人」等それまでは少なかった抽象的な意味を表す単語が作られたのもこの時代である。福沢諭吉も自ら「演説・賛成・討論」等を創りだしたと書いている。当時の日本には概念がなかった単語もあり、翻訳語を創りだす苦労も多かった。

翻訳語を創る方法は、高野（2012）によれば、多少意味にずれがあっても既存の語で置き換える方法、他の外国語から借用する方法、和製漢語として新語を創る方法、カタカナで音訳する方法の4つの方法があるとされる。江戸末期から明治にかけては、和製漢語として多くの新語が作り出された時代であった。前述のとおりのにこれらの一部は中国語に逆輸入され、現代の中国語においても使用されている。韓国語においても同様で、韓国語の中で使用されている和製漢語は日本人にとって聞き取り易いものが多く存在しているのも驚きである。《教材化案 ⑤》

4. 現代の異文化流入と新しいことば

江戸時代末期から明治時代にかけての西洋文化との接触、流入は、その規模と影響の大きさにおいて、現代のグローバル化と重なるものがある。当時は翻訳語が多く創られて新しい概念が受容されたのに対して、現代では翻訳語はほとんど創られず、自動的にカタカナ語として受け入れられている。その理由として、もはや数が多すぎて翻訳語を創っての対応ができないこと、カタカナという便利な表音文字を安易に使用する習慣が広く受け入れられていること、カタカナ語の持つ何か新しく良いものを表しているようなイメージが商業的な面も含めて利用されていること等が考えられる。

一方で、カタカナ語は表音文字として元の単語の発音は示すものの、意味を正しく伝える保証はないため、正しく意味が伝わらないことが生じる可能性が残る。また、原語が長い場合は、日本語特有の語の一部の省略も発生するため、余計に意味が通じない和製英語となってしまうことも考えられる。《教材化案 ⑥》

5. 中国語における翻訳語

中国語においても、同様に翻訳語が問題になっている。中国語への受容の方法としては、音訳、意識、和製漢語の流用、ローマ字表記のまま、があるとされる。《教材化案 ⑦》

表 1 中国語における翻訳方法別単語例

音訳例	guitar	吉他
意識例	convenience store	便利店
音訳・意識の混合例	talk show	脱口秀

日本語との大きな違いは、中国語にはカタカナのような表音文字がないということである。そのため、中国語においては、かつての和製漢語のように、現在でも多くの新語が工夫されながら創出されている。その理由としては、社会的に多民族国家であることで中国語の指針ともなるべき標準化が求められること、そのためにもローマ字や省略語の使用をできるだけ避けて漢語を使用すべきであること、固有の文化である漢字文化自体を守ることも必要であることなどから、国の組織が命名していることが多いとされる。安易にアルファベット語を取り入れないことで国家の威信を保つ目的もあると考えられる。ただし、中国本土では、略字が用いられ、より簡単な表記になっており、香港や台湾では、同じ漢字ながら旧字体を使って表現していることも多い。しかし最近では、商業的目的もあってアルファベット語の使用が増えているとされる。日本語におけるカタカナ語の受容に近づいている面もあるといえる。

しかし、現代の日本語と中国語でその受容の仕方が大きく異なるのは、コンピュータ用語の扱いである。日本語におけるコンピュータ用語は、そのほとんどがカタカナ語であるが、中国語においては、長年にわたり漢語を使った専門用語が生み出されている。日本語と同じ漢語が用いら

れている単語（update→更新）もあるが、以下の例を見れば、ほとんどは漢字が本来内包する意味を生かした漢語となっているのがわかる。

表2 英語・日本語・中国語におけるコンピュータ用語例

英語	日本語	中国語
update	アップデート、更新	更新
Windows	ウインドウズ	視窗
Microsoft	マイクロソフト	微軟
personal computer	パーソナル・コンピュータ、パソコン	微机
web	ウェブ	万維网
virus	コンピュータ・ウイルス	病毒
right-click	右クリック	右擊
double-click	ダブルクリック	双击（双擊）
memory stick	メモリースティック	记忆棒（記憶棒）
hacker	ハッカー	黑客

これらのように意味の組み合わせによって創られた漢語は、漢字が表意文字であることを改めて実感させられる。同じ文字を使っている日本人にとって、なるほどと納得できる組み合わせが多い。《教材化案 ⑧》

コンピュータ用語以外の漢字を使った興味深い翻訳語の例として、以下を挙げる。

表3 英語・日本語・中国語における翻訳例

英語	日本語	中国語
supermarket	スーパーマーケット	超級市場、超市
Doraemon	ドラえもん	哆啦A梦
Southern All Stars	サザンオールスターズ	南天群星
Suntory	サントリー	三得利
Paul McCartney	ポール・マッカートニー	保罗·麦卡特尼

果たしてこれらの中国語も日本人にとって、納得できるものになっているだろうか。コンピュータ用語の場合とは、異なる驚きがあるのではないだろうか。日本人は、中国の漢字という同じ表意文字を使っているが、このような中国式翻訳の方法には、違和感がありそうである。外国語は、音・文字・意味等のどれかに重きを置き、それらの微妙なバランスの上に翻訳語が創られて受容されていく。しかしそのバランスの感覚は言葉によって異なるため、漢字を共有している日本語と中国語の間でも受ける印象は異なってしまう。《教材化案 ⑨》

表意文字である漢字は、カタカナやひらがなとは一目見た印象も大きく異なる。文字自体が絵のように瞬間的に意味を表し、強い印象を与え、力強い。個々の文字が独立した意味を持つ記号のようなものであり、意味のパーツとして組み合わせることにより、新しい単語を創り出すことができ、かつその意味が比較的容易に理解される。一方でカタカナやひらがなは、漢字に比べれば、英語における発音記号のように、単なる音の記号でしかなく、文字自体の印象が薄い。また、漢字とその表す意味は、変遷しやすい音声と異なり、時代や場所を超えて伝えられ、異なる時代や場所の人々にも理解されることができる。漢字を表意文字、表音文字の両面で使ってきた日本人は、漢字に対して中国人とは異なる印象を持ち、感じるインパクトも同じではないことが考えられ、それがバランス感覚に違いを生じさせる一因といえるだろう。

6. 小学校国語教科書における和語・漢語・外来語

前稿（西崎 2013b）でも触れたが、東京書籍『新しい国語 6年上』「日本の文字に関心を持とう」におけるねらいは、平仮名と片仮名の由来と特色を理解し、日本語の表記について知る、と記載されている。万葉仮名の語彙例としては、「白雪能（しらゆきの）、波名（花）、比登（人）、波里（針）」が挙げられ、漢字は表音＋表意文字であること、漢字から「かな」が作られ、それらは表音文字であり表意文字ではないと書かれている。

『新しい国語 6年下』「言葉の由来に関心を持とう」でのねらいは、和語・漢語・外来語の由来を理解し、日本語についての関心を深める、である。語彙例としては、和語（もともとあった言葉）は「うみ・やま・あかい」、漢語（古い時代に中国から入った漢字の音を用いて日本で作られたものもある）は「学校・教室」が挙げられている。江戸時代になってから鎖国の時期には外国語は入らなかったこと、オランダ語から医学の言葉が生まれたこと、明治時代には多くの外国語が日本語として受け入れられたことが書かれている。

光村図書『国語 5年』「和語・漢語・外来語」の指導目標は、「和語・漢語・外来語の由来を理解することができる。」である。語彙例としては、和語（もともと日本にあった言葉、訓で読む）は「ふるさと・過ごす・かなり」、漢語（古くに中国から日本に入ってきた言葉）は「帰省・相当・混雑・予想」が挙げられている。加えて、和語・漢語・外来語の意味の一致と不一致についても触れられており、その例として生物（せいぶつ）と生物（なまもの）、色紙（いろがみ）と色紙（しきし）等が扱われている。ここでは、日本語では同じように使われているが、和語、漢語、外来語という違いにより、単語の意味や受ける感じや印象が異なることに気付くことも含まれている。ひらがなで書かれた和語で、「ふるさとへ帰る」という言い方と、漢語で「帰省する」という言い方の語感の違いにも気づかせたい。

光村図書『国語 5年』では、複合語も学ぶが、和語：角笛・正夢・昼休み、漢語＋漢語：消費税・国境線・特別価格、和語＋漢語：恩返し・雪合戦・年賀はがき、漢語＋外来語：ピアノ教室・五十メートル走、長い複合語：映画完成記念特別試写会・国民体育大会等が挙げられている。他に、元の言葉と発音が変わる例：こめ＋たわら→こめだわら、元の言葉と音の高さが変わる

例：ひる＋休み→ひるやすみ等、意味のパーツを組み合わせて作る言葉が取り上げられている。ここでは、分類の方法を学ぶのではなく、ことばがどのように組み立てられているのかを知り、知らないことばに出会った時に、意味を類推することが可能であることに気付き、より興味をもってことばをとらえることがねらいである。《教材化案 ⑩》

7. 英語における翻訳語

伝統的日本語である和語と中国からの漢字で書かれる漢語を比較すると、文字、音声共に語感が異なっている。日本人にとって、よりわかりやすく、やわらかく、平易に感じられる和語に対して、難解で堅苦しく、正式な感じの漢語という印象があるといえる。このように、本来存在する言語に、歴史的に別の言語からの影響を受けて、それを受容し、吸収して変化を遂げていくのは、日本語だけではない。他の言語も互いに影響をし合い、結果が現在の姿となっている。

英語の場合も、ラテン語、ギリシャ語をはじめ、過去には様々な影響を受けたが、なかでも最も影響が大きかったのは、1066年のノルマン人の征服である。これにより、ノルマン人が支配者階級となり、フランス語が公用語とされ、政治、法律用語等を中心に、フランス語の語彙が大量に使用されるようになった。支配者階級と被支配者階級が使用する語彙を分けるために、pig-porkのように動物とその肉の呼び名が分けられたのもこの時期である。その後英語が復権し、現在の英語へと発展する標準英語が成立していくが、受容されたノルマン系語彙は、現在でも多く存在している。英語とフランス語が接触したことにより、和語に漢語が加わったのと同様、もともとの英語であったサクソン系の語彙にノルマン系の語彙が加わる結果となった。表4はそれぞれの対比を示している。

表4 英語におけるサクソン系語彙 対 ノルマン系語彙と日本語における和語 対 漢語

英語		日本語	
サクソン系語彙	ノルマン系語彙	和語	漢語
carry	transport	運ぶ	運搬する
buy	purchase	買う	購買する
quick	rapid	速い	迅速な
womanly	feminine	女らしい	女性的
lift	elevate	上げる	上昇させる
take off	remove	除く	除去する
get out	escape	逃げる	逃亡する
go on	continue	続ける	続行する

森住衛 (2004) 『単語の文化的意味』三省堂 p25 より西崎が作表

限られた語彙例ではあるが、元からあるサクソン系語彙ならびに和語の方が、平易でわかりやすい単語で、後に受容されたノルマン系語彙と漢語は、堅くて難解な印象を受ける。同じ意味を表すことばが複数ある存在する場合は、このような歴史的背景が原因となっているという場合があるという例である。

8. 国語、英語（外国語活動）、そして歴史（社会）との連携と教材化案

《教材化案 ①》から《教材化案 ⑩》について、以下そのポイントを整理し、教材化する場合の視点の可能性を考える。

《教材化案 ①》

- Q. 外来語の中で、ポルトガルからの語にはどんなものがあるか。
それはいつ頃伝わった語か。
なぜその語が使われるようになったのか。

《教材化案 ②》

- Q. 外来語の中で、オランダからの語にはどんなものがあるか。
それはいつ頃伝わった語か。
なぜその語が使われるようになったのか。

《教材化案 ③》

- Q. 当時の翻訳語にはどんな語があるか。分類するとどのような分野の語が多いか。
この時代に誰がどこの国へ行き、その後どのような活躍をしたか。
もともと通訳ではないが、通訳として活躍した人はいるか。それはなぜか。

《教材化案 ④》

- Q. 他に中国でそのまま使われている語を調べるには、どうしたらよいか。
他にどんな語が使われているか。

《教材化案 ⑤》

- Q. 字幕付きの韓流ドラマの一部を観て、(ほぼ)同じ発音の漢語を聞き取ってみよう。
どんな語があったか、漢字で書きだしてみよう。
韓国風の発音は、日本の発音とどのように違って(似て)いたか。

《教材化案 ⑥》

- Q. 最近、よく見かけるようになったカタカナ語にはどんなものがあるか。
そのカタカナ語は、おじいさんやおばあさんも理解できるか。

本来の英語を、日本人が省略して使っていて、ネイティブスピーカーにとって理解できなくなっている語にはどんなものがあるか。

《教材化案 ⑦》

Q. 中国語で、マクドナルドはどう表記されているか。

他にもケンタッキーフライドチキンはどうか。日本人に理解できる漢字表記か。

《教材化案 ⑧》

Q. 中国から伝わった漢字が、日本では元の形を残しているが、中国本土では略字を使うことが多い。どのような例があるか。

中国のコンピュータ用語などで、漢字が意味を表す部品（パーツ）として使われているが、どの漢字がどのような意味になっているか。

《教材化案 ⑨》

Q. 日本の歌手、会社、食べ物などは、どのような漢字でどう表現されているだろうか。

翻訳されて使われている中国語ではない語は、日本人にとってはどのくらい理解できるだろうか。

北京動物園の地図から、どこにどの動物がいるか、どのくらい類推できるか。

《教材化案 ⑩》

Q. 同じ意味の語に対する和語と漢語をさがしてみよう。

和語で言われた場合と、漢語で言われた場合、感じ方は違うだろうか。

違いがあるならば、どういうときに、どちらを使ったらよいだろうか。

9. おわりに

小学校において、他教科を関連させて教えることは、担任制の面からは中学校や高校よりは実現可能性は高い。子どもたちにとっても、小学校レベルの知識は、科目別にすべて個々のものとして教えるよりも、関連性を感じさせながら学ぶ機会を持つことで、理解が深まり、興味関心も高まることが期待できる。しかし、現実には、科目横断的な授業を行う余裕や、指導法等が十分とはいえない状況がある。外国語活動においても、CLIL（内容言語統合型学習）を取り入れようとする動きもある。今後、外国語活動の拡大や教科化に伴い、より子どもたちが興味を持って英語をそしてことばを、そして知識を捉え、学んでいけるよう教育方法の研究と開発が急がれる。

《参考文献》

- 石川英輔、田中優子（1999）『大江戸ボランティア事情』講談社
- 石川謙（1960）『寺子屋—庶民教育機関—』至文堂
- 伊村元道、若林俊介（1980）『英語教育の歩み』中教出版
- 伊村元道（2003）『日本の英語教育200年』大修館書店
- 江利川春雄（2011）『受験英語と日本人』研究社
- 江利川春雄（2006）『近代日本の英語科教育史』、東信社
- 大石 学（2007）『江戸の教育力』東京学芸大学出版会
- 勝俣銓吉（1936）『日本英学小史』研究社
- 川澄哲夫編（1988）『資料 日本英学史1上 文明開化と英学』大修館書店
- 川澄哲夫編（1998）『資料 日本英学史1下 文明開化と英学』大修館書店
- 小泉吉永（2009）『江戸に学ぶ人育て人づくり』角川SSコミュニケーションズ
- 小林功芳（2000）『英学と宣教の諸相』有隣堂
- 斎藤兆史（2000）『英語達人列伝』中央公論新社（中公新書1533）
- 斎藤兆史（2003）『英語達人塾』中央公論新社（中公新書1701）
- 斎藤兆史（2007）『日本人と英語』研究社
- 定宗數松（1979）『日本英学物語』三省堂
- 杉本つとむ（1976）『江戸時代蘭語学の成立とその展開』早稲田大学出版部
- 惣郷正明（1990）『日本英学のあけぼの』創拓社
- 高橋 敏（2007）『江戸の教育力』筑摩書房（ちくま新書692）
- 高梨健吉（1979）『幕末明治英語物語』、研究社出版
- 高梨健吉（1965）『英学ことはじめ』角川書店
- 竹村覚（1982）『日本英学発達史』名著普及会
- 東京書籍（2009）『新編 新しい社会 6上』東京書籍
- 東京書籍（2011）『新しい国語 六上 教師用指導書指導編』東京書籍
- 東京書籍（2011）『新しい国語 六下 教師用指導書指導編』東京書籍
- 西崎有多子（2009）『小学校外国語活動を考える』三恵社
- 西崎有多子（2013b）「外来語を使って『外国語活動』と『国語』を連携させる授業を創る」『東邦学誌』第42巻第2号
- 西崎有多子（2013）「外来語を使って『外国語活動』と『国語』を連携させる授業を創る—児童の気付きとことばへの考察を促す教材としての外来語—」第21回日本児童英語教育学会九州沖縄支部研究大会（久留米大学 福岡サテライトキャンパス）研究発表資料
- 西崎有多子（2014）「新しいことばの創造と受容を通して日本語と外国語を考える指導～江戸時代から現代に至る異文化流入とその影響を通して～」第14回小学校英語教育学会（JES）神奈川大会（関東学院大学 金沢八景キャンパス）研究発表資料
- 日本英学史学会『英語事始』エンサイクロペディアブリタニカ（ジャパン）インコーポレーテッド、1976年
- 日本の英学一〇〇年編集部編（1968）『日本の英学一〇〇年 明治編』研究社
- 福原麟太郎（1946）『日本の英学』生活社
- 光村図書（2011）『小学校国語 学習指導書 五 銀河（上）』光村図書出版
- 光村図書（2011）『小学校国語 学習指導書 五 銀河（下）』光村図書出版
- 光村図書（2011）『小学校国語 学習指導書別冊 五 銀河』光村図書出版
- 百瀬明治（1989）『「適塾」の研究』PHP研究所
- 森山卓郎（編著）（2009）『国語からはじめる外国語活動』慶應義塾大学出版会

文部科学省（2008）『小学校学習指導要領』

文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説 国語編』

山田雄一郎（2005）『日本の英語教育』岩波書店（岩波新書943）

中国語については、本学人間学部准教授、尚 爾華先生へ聞き取り調査を行い、参考とさせて頂きました。尚先生のご協力に御礼申し上げます。

本研究の一部は、科研費JSPS24520718の助成を受けたものです。

受理日 平成26年10月1日